

訪問介護サービス 第22回 運営推進会議議事録			
日時	2021年 9月 16日 (金) 11:00~11:35		
場所	3階 第2会議室		
司会	寺崎科長	書記	藤井
出席者	ルピアマツ（朽尾、小川）、ケアラセンター奏（大槻、志水）、あいわ診療所所長（伊藤）		
	ケアラセンターはなみずき施設長（長尾）、ケアラセンターあいわ（土本、福嶋、森本、西川、実習生3名）		
	有限会社みらい（岡田）、中央包括（井口）、緑地包括（寛山、安藤、実習生1名）		
	訪問看護管理者（寺崎）訪問介護サービスあいわ（長尾、藤井）		
1.参加者紹介			
2.2021年4月から9月の実績			
●契約者数の推移			
2021年4月は、登録者数5名でスタート			
8月に新規1名			
9月1名他界され現在5名となった			
●4月～9月の看護ありの契約者数の推移			
4月は5名中3名利用			
6月より1名服薬管理ができなくなり4名が利用となった			
●4月からの訪問延べ件数			
介護の総件数は593件、月平均は100件			
看護の総件数は98件、月平均は16件となった			
昨年度の介護の総件数は1139件（昨年度比52%）			
昨年度の看護の総件数は221件（昨年度比44%）			
訪問件数の減少の要因は1日複数回訪問の利用者の状態悪化による施設入所と、 家族の希望により定期巡回利用から、訪問介護利用への変更となり2名の 解約によるものとなった			
●介護度別推移			
介護度別推移の大きな変化はなく平均介護度は1.6となった			
●事故報告			
4月から9月の事故報告なし			

●随時訪問内容
4月から9月までの随時訪問は2回
・足の痛み訴えによる訪問
・見当識障がいあり混乱されておられ訪問
●特別訪問看護指示書内容・実際の看護の訪問内容
●事例紹介
パワーポイント参照
●介護・医療連携
・今回事例の利用者はK病院からの依頼であった
当事業所の看護師がK病院との連携を持っており、定期巡回の紹介をしていた
K病院のMSWから当事業所に打診をもらい、CMを通して定期巡回導入となった
喀痰吸引のため吸引器については訪問看護へ依頼、在宅医への連絡、往診時の 立会いをCM・医療職が行い、訪問内容等については、家族・CM・介護職で 検討を行った
短い期間ではあったが、一体型の強みになったのではないかと考える
●職員として苦労する点
・人員の確保、急な訪問の調整に時間を費やす
・身体介護が中心となるサービスであり、職員・登録ヘルパーの介護技術、 判断力、医療的知識が必要なため、研修会等を開催しているが、高齢化の波も あり実践に結びつきにくい
●課題と今後の展開
・他事業所CMより定期巡回についてよく知らないのですが…と問い合わせが あるため定期巡回についての勉強会等を開き、周知していく
・周辺の定期巡回事業所の介護・医療連携推進会議に参加できる機会をつくる
・定期巡回サービスと地域とのかかわりを強めていくために包括を中心に、 民生委員や校区福祉委員との繋がりを大切にしていく (例えばふれあいサロンの参加や定期巡回開始時の報告からはじめていく)

<p>●質疑応答</p> <p>大槻氏：契約者数6名、受入れ数としてはどのようなレベルか</p> <p>藤井：事業所としてはサービスの頻度にもよるが少ないと考えている 過去には10名程度の利用があった</p> <p>大槻氏：対象範囲やケースにもよりCMが依頼するにあたって貴重な情報である。CM側が判断できるように勉強していく必要がある</p> <p>白川：事例の利用者はK病院からの紹介ということだが、他病院等への定期巡回の情報提供は行っているのか</p> <p>藤井：5か所ほど行っている</p> <p>白川：病院等が周知しているとサービスが繋がりがやすく、医療的に必要性があると家族も理解されやすい</p> <p>細川：以前、他の利用者の担当者会議で定期巡回をしていると話したことがあり今回、病院からも定期巡回の提案があり導入となった</p> <p>寺崎：普及活動も今後の課題である</p> <p>土本：実際に定期巡回を利用している もともと看護が必要ない利用者で、訪問介護で、入浴・買い物・掃除等のサービスを利用していた。身よりも無く何かあった時のために定期巡回を利用開始、認知症の悪化で服薬管理ができず体調を崩し看護も介入服薬管理を行い現在は体調等落ち着いてる。看護の利用無しで開始となったが、関わりがあるため利用者も受けやすかった</p> <p>栃尾：5名ほどの方を在宅で伺っているが、服薬で難しいのが認知症の方 毎週土曜日に1週間分内服を服薬カレンダーにセットしているが、実際に服薬できているかは本人やヘルパーに任せている。</p> <p>小川：服薬ができているかの確認はヘルパーや看護師に頼んでいる部分があるので、もっと連携を取って患者さんに合った服薬指導ができればと思う 事例として、薬を持って行く日に患者さんと連絡が取れなくなり、CM等と連絡し、家族に鍵を開けに来てもらい中に入ると、患者さんが動けなくなっており、定期巡回利用で状態の変化を早めに気づけたらいいかと思う</p> <p>志水：今回の事例の担当 退院にあたり、以前利用していた訪問看護等すべてを変えてしまうことに心配と抵抗を感じていたが、SMWからの強い提案で思い切って定期巡回を利用して良かったと思う。定期巡回のことを細川から聞いていたので、</p>	<p>安心して連携を取ることができた。本人・家族が在宅で過ごしたいという願いを強く持っていたので、よい看取りができたと思っている</p> <p>伊藤：この制度が始まってから長いですが、なかなか浸透していないのが実情である ケースも10件以上が望ましく浸透していないのが問題である。こういう機会を利用して定期巡回の周知をする。看護・介護・医療の連携する良いシステムと考える サービス量や料金の面でいろいろな問題もあるが有効な活用を望んでいる 今後コロナの状況も踏まえて在宅で利用者をどう支えていくのが重要なポイントである。その中でいろいろな職種が顔を合わせて話をする機会を持ち、特にWEBを活用すると集まりやすいというメリットがあるため今後も利用していきたいと考えている</p>
	<p>次回2022年2月予定</p>
	<p>以上</p>